

アライグマ防除の基本的な考え方

アライグマ問題の深刻さを理解し、その防除を効率的に進めるためには、生物としてのアライグマの特徴を正しく理解しておく必要があります。このリーフレットでは、アライグマの生態的特徴や行動特性のうち、とくに防除に役に立つポイントを整理しました。

(1) 放っておけば、いくらでも増える

■繁殖率や生存率が高い

繁殖率は1歳で約66%、2歳以上になるとほぼ100%が繁殖し、死ぬまで下がりません。平均で3～5頭の子供を出産します。流産や捕獲により、授乳せずに子供を失うと、再び発情する損失補てん能力に加え、1歳前死亡率は35～48%程度と低く、生まれた子供の大半が生き残って繁殖活動に参加します。



捕獲されたアライグマの子供

■まだまだ増える

日本におけるアライグマの生息密度は、高くても11頭/km²（千葉県いすみ市）～13.8頭/km²（神奈川県葉山町）程度ですが、原産国の北米では20頭/km²以上の高密度地域が多く存在します。生ゴミなどのエサ資源が多い都市部では、125頭/km²（66.7～333.3頭/km²：ワシントンD.C.）という驚異的な生息密度も報告されています。

【防除のポイント】

●捕らなきや減らない！！

裏を返せば、捕れば確実に減らすことができるということ。捕っても減らないのは、捕り方が足りないからです。捕獲圧を強化して、1頭でも多くのアライグマを除去しましょう。

●生息数が増えると、1年で増える頭数も多くなる！！

都市部で分布拡大速度が速いのは、捨てられたアライグマが多かったからです。生息数が少ないうちに捕獲を進めることで、爆発的な増加を回避できます。

(2) 被害が深刻化するメカニズム

■執着心が強い

習慣性が強く、気に入った食べ物に執着するため、一度味をしめてしまうと繰り返し被害が発生します。

■群れで行動する

子供が自立する7月以降は、母子が集団で行動するため、一度の被害量が多くなる傾向があります。



深夜に集団で行動する母子

■手先が器用で力持ち

フタや重石をどかしたり、カギを開けるなど、一度執着されると防衛が困難になります。木登りが得意で、柵や壁を乗り越えて侵入できるため、人家や建造物へ侵入する生活被害も発生しています。



垂直の立木でも器用に登る



天井に穴を開け、台所へ侵入する

【防除のポイント】

●味を覚えさせない。予防が大事！！

毎年被害に遭う作物は、今年も必ず被害が発生します。被害が発生する前に対策を講じるよう心がけましょう。

●侵入防止には、電気柵の敷設が不可欠！！

金網柵やネット柵ではアライグマの侵入は防げません。10～15cm 間隔で3段以上の電気柵を張るか、金網と電気柵を合わせた複合柵を設置しましょう。

(3) 好んで利用する環境

■水辺を好む

アライグマにとって、水辺環境は繁殖やエサ動物の探索に不可欠です。身を隠して移動でき、エサを探せる河川や用排水路、ため池はとくに好んで利用する環境です。



立ち上がり、周囲を警戒する

■竹林や防風林を好む

平野部や都市部の林地は、身を隠しながら移動できる貴重な資源です。とくに本州部では、竹林を好んで利用することが知られています。

■空き家や納屋を好む

冬に暖がとれ、おいしい作物へのアクセスも良い建造物は繁殖や一時避難所としてよく利用されます。



河原でエサを探すアライグマ
動くものは何でも捕まえる



屋根裏や納屋の中で繁殖されると
汚損や感染症のリスクが高まります

【防除のポイント】

●よく利用する環境は、捕獲場所にも最適！！

利用頻度が高いということは、わなに会う確率も高いということです。水辺にわなを設置する際には、わなの水没や流下に気をつけましょう。

●エサが豊富な農地ではなく、移動経路や繁殖場所で捕獲しよう！

周りにたくさんエサがある農地の中では捕獲効率が下がります。農地への移動ルートやねぐらの周辺にわなを設置しましょう。

(4) 好きな食べ物とエサの探索行動

■雑食性

どんなものでも食べますが、手に入りやすく大量にある食べ物に依存する傾向が強いため、地域ごとに被害に遭う作物は異なることがあります。一般的には、甘みの強いブドウやイチゴ、メロン、スイカなどの果物や、トウモロコシやカボチャなどの野菜類を好んで食べます。乾燥トウモロコシが入った家畜用の飼料や家禽などに被害が発生することもあります。



スイカやメロンは、5cm くらいの穴を開けて、中身を掻き出して食べます



ブドウ棚の上に袋が引き上げられるのは、アライグマ被害の特徴

■敏感な触覚器

毛のない柔らかな手のひらは、アライグマの主要な感覚器です。手探りでエサを探索し、動くものすべてを捕まえるため、産卵期のカエルやサンショウウオ、冬眠中のカメなどに深刻な被害が発生することが知られています。



アライグマに食害されたカエル

【防除のポイント】

●誘引エサは、常に新鮮に！！

エサの鮮度が落ちると捕獲効率が下がります。わなの中のエサが常に新鮮であるように、エサの管理や交換をこまめに行いましょう。

●手探りでエサを探すアライグマ捕獲には、まき餌が有効！！

まき餌が無いと、わなの前を素通りすることもあります。まき餌は、周囲に広く薄くまいて、エサの存在に気づかせましょう。

●誘引エサには、甘く油のにおいが強いものが最適！

インスタントラーメン、パン、お菓子などがよく使われています。肉や魚は腐りやすく、イタチなど肉食動物の混獲が増えますが、いざという時には効果的です。ネコが頻繁に捕まる場合は、リンゴなどの果物を使うと混獲を防げます。

(5) 生息数を減らすのに効果的な捕獲時期

■繁殖期

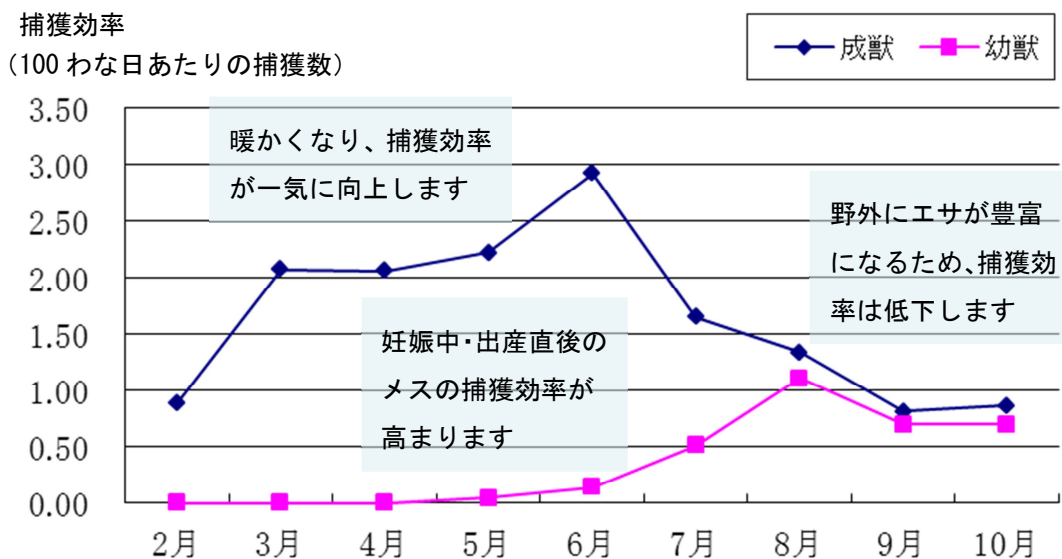
アライグマは1年に1度、4～6月に出産します。生まれた子供は生後50日程度でねぐらを出て、親と一緒に行動するようになります。母親だけが子育てをするアライグマでは、授乳期に母親を失うと子供の生存率は著しく低下すると考えられています。



夏になると母子が一緒に行動する姿が目撃されるようになります

■エサによる誘引効果

アライグマの活動性は2月後半頃より上昇し、エサの欲求も高まります。とくに春先は野外に食べ物が少ないため、エサによる誘引低下します。



アライグマの月別捕獲効率の推移 (資料提供 阿部豪)

【防除のポイント】

●捕獲適期は、3～6月！！

エサによる誘引効果が高まる3月頃から、子供が自立する6月後半までの捕獲が、アライグマの生息数を減らすのに最適です。

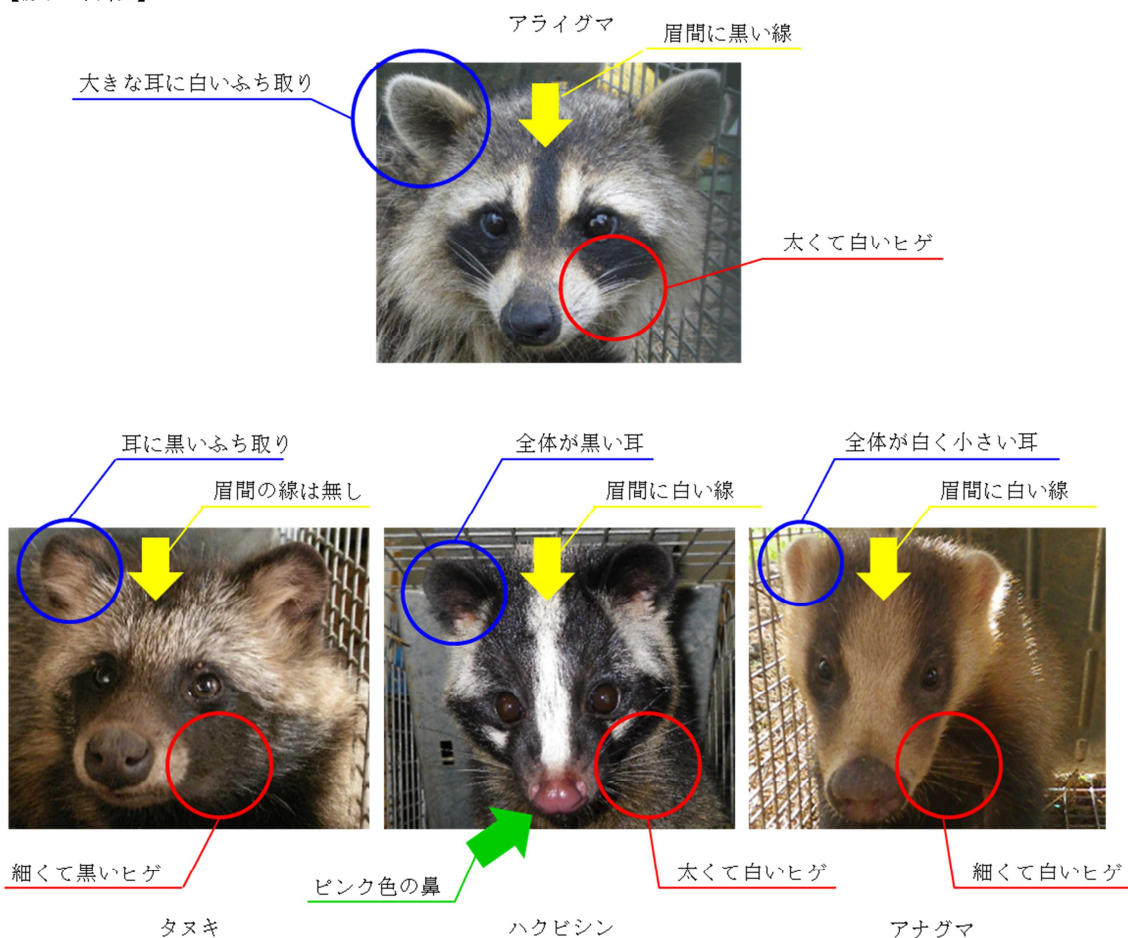
●農作物の被害発生時期には、作物の防衛を！

タダで食べられる農作物がある間は、狭いわな内のエサは食べません。しっかりと農作物を防衛することは、被害対策だけでなく捕獲の効率向上にも有効です。

アライグマの見分け方

顔や体の特徴を知って、見かけたり捕獲した動物の種類がわかるようになります。

【顔の特徴】



【身体の特徴】



アライグマ防除の基本的な考え方

平成 27 年 3 月 初版

■編集・発行／関西広域連合

■写真提供／阿部 豪（株式会社 野生鳥獣対策連携センター）

※本リーフレットに掲載した写真や資料は、すべて株式会社 野生鳥獣対策連携センターが所有するものです。写真や資料の無断転載、無断コピーはご遠慮ください。

アライグマ捕獲の手順

このリーフレットでは、アライグマをはこわなで効率的に捕獲するための手順について解説します。アライグマの特徴を知ってわなを設置、管理することで、1頭でも多くのアライグマを捕獲しましょう。

Step1. アライグマがいることを確認する。

侵入初期や、ある程度捕獲が進んだ地域では、アライグマの生息密度が少ないため、適切な場所に適切にわなを仕掛けていても、なかなか捕獲できないことがあります。わなを設置する際には、必ず確実に新鮮な痕跡を見つけるよう心掛けましょう。

【確実性の高い情報の例】

<足跡>

アライグマの手足の形は、とても特徴的です。前後肢ともに肉球に毛はなく、人間のように独立した5本の長い指を持っています。後肢はかかとまで接地するため、前肢と比べて大きな足跡が残ります。歩き方も特徴的で、小さな前肢と大きな後肢が横に並んだ足跡が等間隔で続きます。



アライグマの前肢（左）と後肢（右）

どちらも5本の独立した長い指を持つのが特徴です。前肢は幅3cm程度、長さ5cm程度が接地するのに対し、後肢は幅3cm程度、長さ11cm程度が接地します。



アライグマの歩き方

耕された畑や水気の多い水田などでは、指の形がはっきりと確認できないこともあります。こうした環境でも、歩き方を見るだけでアライグマの痕跡であることを確認できることがあります。

<食痕>

一部の農作物では、アライグマに特徴的な食痕が残ることがあります。特徴を知っておくことで、アライグマの侵入に素早く気づくことができます。



メロンやスイカ、カボチャなどの食痕

球形の果菜類の場合、直径 5cm くらいの円形の穴を開け、中身を掻き出して食べる特徴的な痕跡が残ります。



ブドウの食痕

ブドウは、アライグマのほか、テンやハクビシンもよく食べに来ます。袋を棚の上に引き上げたような痕跡があれば、手先が器用なアライグマによる食害の可能性が高いと判断できます。被害量は多く、皮が地面に散乱します。

<写真や死体、捕獲個体>

センサーカメラなどで撮影された写真データは、非常に確度の高い情報になりますが、一時的に通過しただけだと捕獲に至らない場合も多いので、撮影頻度なども参考に、捕獲を実行すべきか検討しましょう。



一方、交通事故死体や捕獲個体から、他のアライグマの存在を推測できるケースもあります。とくに乳房の発達したメスや、体重が 3kg 未満の幼獣個体が見つかった場合には、交尾相手のオス以外に、授乳中の母親や捕り残された子供が近くにいる可能性があります。

←授乳中のメス

乳房の発達状況や乳汁分泌の有無で、子育て中かどうか判定できます。



センサーカメラで撮影されたアライグマの親子

母親と子供 2 頭が確認できます。幼獣の行動圏は狭いので、付近で自然繁殖をしている証拠になります。

【参考になる情報の例】

この情報だけでは、アライグマが生息していると判断しにくい情報です。わなを設置する際には、周辺を踏査し、より確実性が高く新鮮な情報を集めることをお勧めします。

<目撃情報>

最も多いのは、夜間に道路を横切る姿を見たという目撃情報です。一瞬のことなので、なかなか正確に特徴を把握するのは難しいですが、歩くときの姿勢やヘッドライトに照らされた足元が白かったか黒かったかなどの印象は記憶に残りやすい情報です。



←アライグマの体の特徴

アライグマの歩く姿は、写真のように背中を丸めたシルエットになります（実線部）。また、明るい毛色の足元（点線部の下）は、ヘッドライトで照らすと白く光ります。タヌキやキツネ、アナグマ、ハクビシンの足元は、どれも黒っぽい色をしています。

<被害情報>

一部の食痕を除き、食痕だけで加害動物を特定することは困難です。圃場内や周辺のぬかるみ、マルチシート、防草シート上に足跡が残っていないか探してみましょう。



アライグマによる食痕（左、中央）とマルチシートに残った足跡（右）

家族単位で行動するアライグマの場合、一晩の被害量が多くなることも特徴の一つですが、加害動物を特定するためには、注意深く周囲に残された痕跡を観察することが重要です。

<爪痕、糞など>

爪痕や糞だけで獣種を特定することは困難です。とくに古い建物などに残る爪痕は、鮮度の判定が難しいため、雨上がりなどを狙って新鮮な足跡がないか探してみましょう。



アライグマの爪痕→

5本指のくっきりとした長い傷跡が残ります。



←アライグマの糞

屋根裏や橋の下などにため糞場を作ることがあります。

Step2. わなの設置場所を選ぶ。

痕跡のあった場所が常に適切な捕獲場所とは限りません。アライグマが頻繁に利用し、警戒なくエサを食べる場所を選びましょう。

【アライグマが好んで利用する環境】

<水辺の環境>

水辺環境は、アライグマにとって非常に重要な資源です。エサを探したり、水を飲んだりするだけでなく、繁殖場所や移動路としても頻繁に利用するため、捕獲の成功率も高くなります。アライグマが利用する水辺環境は、実に多様です。水辺にわなを設置する際には、わなの水没や流失に気をつけましょう。



ため池や湖沼



自然河川や湿地



水田



一般河川



側溝や排水路



護岸された河川や用水路

＜林内の環境＞

アライグマは、ひらけた環境に身をさらすことを嫌う動物です。防風林や竹林などは、身を隠して移動したり、採餌するのに適した環境です。様々な動物が利用するけもの道を探してわなを設置すると効果的です。



防風林



竹林

＜人家や倉庫、畜舎、納屋など＞

都市部や住宅地では、人家や倉庫などを好んで利用します。また、家畜のエサや穀類が備蓄されている納屋は、休憩場所や繁殖場所としても最適です。こうした場所での捕獲効率は高いですが、捕獲後は周囲のものを引きこんだり、糞尿や血で床や壁が汚れるので、わなはできるだけ建物の外に設置することをお勧めします。



重機小屋や車庫



人家や納屋

＜被害農地＞

被害農地は、アライグマが確実に訪れる場所ですが、周囲にタダで食べられる農作物があると、捕獲効率は下がります。農地は電気柵でしっかりと囲い、農地周辺の水路や防風林内で捕獲をしましょう。

電気柵で囲った農地への通い道
沿いに箱わなを設置した例 →



Step3. わなを設置する。

どんな動物でも初めはわなを警戒します。一步踏み込んだ時に揺れたり、傾いて入りにくいわなではアライグマは捕まりません。わなは、平らな所にしっかりと安定させて設置しましょう。また、わなの入り口や内部、周辺の草を刈り、わなの中のエサを見やすくするのもポイントです。わなには必ず標識を付けましょう。

【設置の際の注意点】

＜転倒防止のため、わなは杭などで固定する＞

捕獲後にわなが転倒してしまうと、ストッパーが外れて、せっかく捕まえた獲物を持ち逃げしてしまいます。わなは、杭や重石を使ってしっかりと固定しましょう。



＜触覚が発達したアライグマには、まき餌が有効＞

アライグマの一番の感覚器は手のひらです。周囲を通るアライグマがエサの存在に気付くように、固いドッグフードなどをまいておくことで捕獲効率は向上します。エサは、徐々にわな内に獲物を誘い込むように配置しましょう。



ワンポイント・アドバイス

●エサは、できるだけ新鮮なものを！

乾燥したり湿気たエサ、腐敗したエサは好みません。できるだけ日持ちの良いエサを選び、こまめに交換しましょう。

●わなには覆いを！

わな内のエサを見せないようにすることで、鳥類の混獲率を下げられます。

【捕獲実績の高いエサ】

●インスタントラーメン、パン、ドーナッツ、お菓子など

油の匂いがしたり、甘味の強いエサを好む傾向があります。

●配合飼料（乾燥トウモロコシ、ふすま）、落花生

牛や豚のエサに含まれるトウモロコシ、鳥のエサのピーナッツなどは大好物です。

●肉類（から揚げなど）、魚類（にぼし、スルメなど）

イタチやテンなど肉食動物が混獲される確率が上がりますが、いざという時には効果的なエサです。

●果物類（リンゴ、ブドウなど）

比較的高価で日持ちがしませんが、ネコなどの混獲が多い場所では有効です。

＜設置したら、必ず動作確認を！！＞

わなやストッパーが確実に稼働するように調整しておきましょう。

Step4. 捕獲を開始する。

毎日見回りをして、常に捕獲できるようにわなやエサを適切に管理しておくことが重要です。見回りでは、以下のことを確認しましょう。

【エサの状態を確認する】

●エサは食べられていないか？

まき餌やわな内のエサが減っている場合は、アライグマが寄りついている可能性があります。

●エサは新鮮か？

エサが古くなると捕獲効率は低下します。こまめにエサを交換して、アライグマが来た時にわなに新鮮なエサが入っているように心がけましょう。



【周囲の足跡を確認する】

●新鮮な足跡はないか？

どんな動物がわなに寄りついているか、アライグマが近くまで来ていないか、足跡を観察する癖をつけましょう。



【わなの状態を確認する】

●わなは破損していないか？

動物を捕獲すると、わなの連結箇所や溶接部分が壊れることがあります。せっかくの獲物を捕り逃がしてしまわないように、わなは常に適切に整備しておきましょう。

●わなは正常に作動するか？

仕掛けがスムーズに動くか、見回りのたびに確認しましょう。わなが錆びついたり、扉が途中で引っかからないか、実際にわなを稼働させて確認しましょう。



よくある逃走例

(左：わな内からの衝撃でストッパーが外れた例、右：後扉を内側に引き開けられた例)
わな選定のポイント (P. 17) を参考に、痛んだ部分はこまめに補修や補強をしましょう。

Step5. 捕獲したアライグマを殺処分する。

捕まえたアライグマを逃がさず、安全かつ速やかに殺処分することが重要です。

【扉を固定する】

人の姿を見たアライグマは、必死で逃げようとします。アライグマが捕まっていることを確認したら、まずは扉が開かないように針金で縛るなど、逃走防止の措置を講じましょう。



扉が開かないようにかんぬきを挿した例

【覆いをかける】

わなの中が暗くなり、外が見えなくなるとアライグマは落ち着きます。捕獲現場で処置を待つ間や、処分場まで移動する際には、わなに覆いをかけるようにしましょう。



殺処分の待機中や移送時には、覆いをかけて捕獲個体を落ち着かせる

【長時間放置せず、速やかに処分する】

捕獲個体を長時間放置すると、事故や逃亡のリスクが高まります。見回りは毎日行い、捕獲を確認したら、速やかに処分しましょう。

怪我や感染症を予防について

アライグマだけでなく、野生動物は様々な感染症やウイルスを持っています。捕獲作業の際には、次のことに気をつけましょう。

- 作業中に飲食したり、タバコを吸わないこと。マスクをするのも有効です。
- 不用意に捕獲した動物に近寄らないこと。皮手袋などをするのも有効です。
- 作業が終わったら、手洗いとうがい、作業着の洗濯をすること。
- 作業中に怪我をしたり、体調不良を感じたら、作業内容を伝えて医療機関を受診すること。

農業被害対策について

アライグマによる農作物被害を防ぐには、電気柵の設置が不可欠です。電気柵は10～15cm 間隔で3段以上設置しましょう。農地の作物をしっかりと管理することで、わな内のエサの魅力が増し、結果的に捕獲の効率化にもつながります。

【わな選定のポイント】

■わなの大きさ

国内でよく使用されているはこわなのサイズは、横 30cm×高さ 30cm×奥行き 80cm 程度です。この大きさと体重 10kg を越える大型の個体でも捕獲することができます。持ち運びや保管場所の都合も考えて適切な大きさのわなを選びましょう。

■わなの強度

アライグマはとても力が強いので、できるだけ頑丈な構造のわなを使いましょう。とくに折り畳み式のわなや扉部分など、稼動部分は狙われやすいので、必要に応じて補強することも大切です。

■ストッパー機能

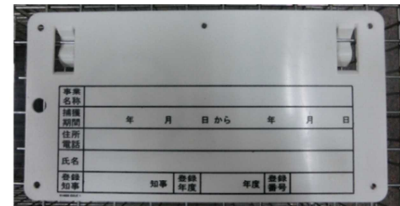
アライグマは力が強く手先が器用なので、ストッパー機能が無いわなは使えません。捕獲完了後、わな内から扉を開けられない構造のものを使いましょう。

■仕掛けの種類

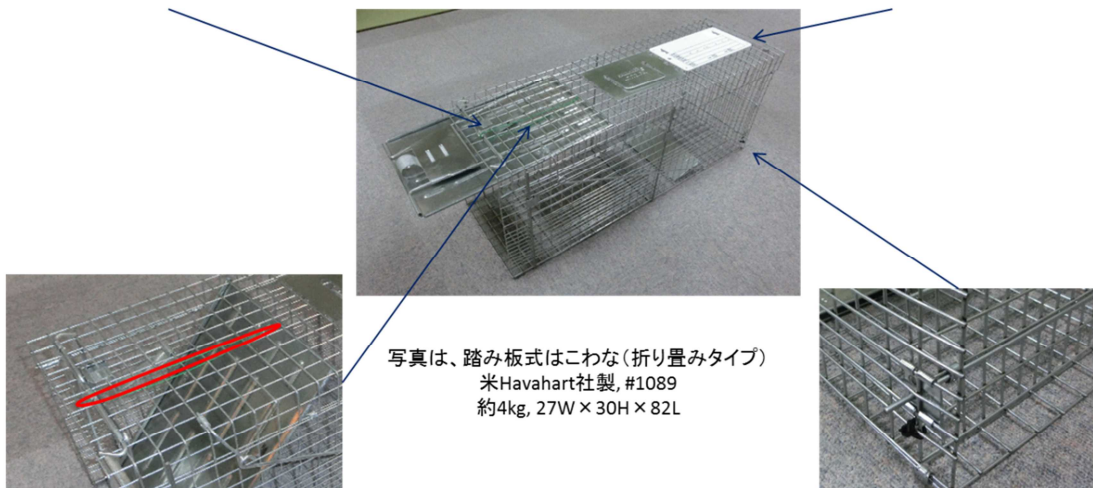
はこわなの仕掛けには、踏み板式と吊り下げ式があります。捕獲効率はどちらも変わりませんが、地面が湿っているような環境では、吊り下げ式のわなの方がエサの持ちが良くなります。



捕獲後、わなの扉が開かないようにするストッパー機能の付いたわなを選びます。



わなには、必ず捕獲者の氏名と連絡先、許可の種類や許可番号を記載した標識を貼付します。



写真は、踏み板式はこわな（折り畳みタイプ）
米Havahart社製、#1089
約4kg, 27W×30H×82L

扉部分は、最も狙われやすい部分なので、ストッパーを補強したり、内側から掴めないように板を貼るなどの工夫が必要です。図の赤線は、扉の開放を防ぐために追加した補強用ワイヤーです。

後扉の可動部は、針金や結束バンドなどで固定します。

アライグマ捕獲の手順

平成 27 年 3 月 初版

■編集・発行／関西広域連合

■写真提供／阿部 豪（株式会社 野生鳥獣対策連携センター）

※本リーフレットに掲載した写真や資料は、すべて株式会社 野生鳥獣対策連携センターが所有するものです。写真や資料の無断転載、無断コピーはご遠慮ください。